

## 「インドネシア大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学大学院文学研究科博士課程1年 山下嗣太

本スプリングスクールは、インドネシア語の授業、日本学科の学生向けの授業への参加、そして日本学科の学生たちとのグループ・プレゼンテーションという三項目から構成されている。

日本学科生向けの授業への参加では、インドネシア大学での授業の雰囲気を知ることが出来た。わざわざ京大生向けに日本語での授業スライドを準備して下さった先生もあり、短期間ながら大変勉強になった。特に社会思想に関する授業では、同じ概念でも日本とインドネシアでは解釈のされ方が異なっており、インドネシア社会を知る上で興味深いものだった。

グループ・プレゼンテーションの準備では、日本人学生は習ったばかりのインドネシア語を積極的に使おうとし、またインドネシア人の学生にとっても日本語でディスカッションをする機会は貴重らしく、お互いにとって有意義な時間が過ごせた。しかし、プログラムのオーガナイズに関しては、大幅に改善する余地があると感じる。発表を通して現地の学生たちと交流することそのものが目的とされており、研究発表としての内容については重要視されていない。特に、最終のプレゼンテーションまで教員による指導は一度もなく、二週間生徒たちだけで準備を行うのみであった。二週間というまとまった時間を毎日現地の大学生と共に過ごすことができるのであれば、明確なテーマ設定のもとで調査を行うなど、より貴重な学問的経験ができるだろう。SENDプログラムの目的が交流にあることは理解しているが、やはり大学間の交流である以上、学問的な目的があってしかるべきだと思う。

ワークショップで知り合った日本学科の学生たちとは、ワークショップ終了後も継続的に交流している。定期的に言語の勉強会を行い、日本語とインドネシア語のそれぞれを共に勉強している。日本学科の学生の大半は、四年間毎日日本語や日本文化について勉強しているにもかかわらず、経済的な事情などから、日本に一度も行ったことがないという。実際に日本を訪れることが、勉強により真剣に取り組むためのモチベーションにつながるため、短期間でも京都大学を訪れる機会がより多く提供できればと思う。